

カラダの 相談室

交野病院 院長兼
信愛会脊椎脊髄センター
センター長
ほうしまる
寶子丸 稔さん

第2回



頰椎の病気

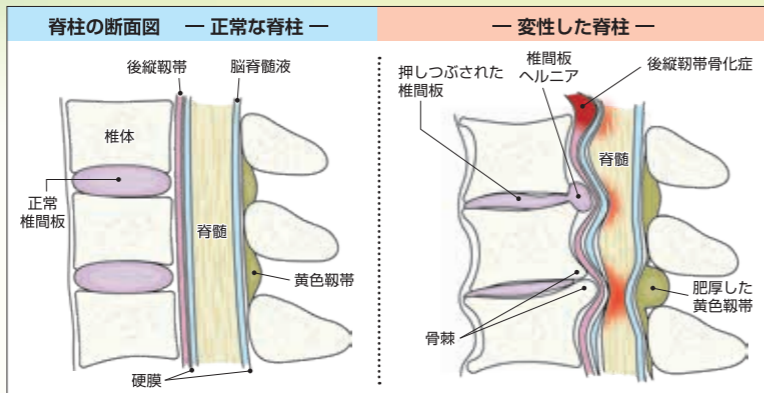
頰椎(けいつい)の中でクッション材の役割をしている椎間板(ついかんぱん)は、20歳過ぎから変性(老化現象)が始まると言われます。この変性が進むと手足にしびれや痛み、運動機能の障害などが起きるようになってきます。

自分の病態を知り不安を解消 生活習慣の改善が治療の基本

Q 80歳の男性です。歩行で脚がもつれるような感じや階段で手すりを持つようになつていきます。そのほか手のしびれや、痛みもあります。このような症状がなぜ起こるか教えてください。

A 頰椎で脊髄(せきずい)か神経(しんけい)どちらが圧迫(おさ)されるかにより「頰椎症性脊髄症(図参照)」と「頰椎症性神経根症」の二つに分けられます。ご質問の症状は前者だと思います。脊髄症は7個の椎体(ついたい)の間にある椎間板(ついかんぱん)が年齢とともに劣化していき椎体に骨棘(こつきょく)といふような突起(とつ)が生じ脊髄を圧迫(おさ)します。さらに黄色(おう)靱帯(じんたい)が厚くなつて脊管(せきくわん)内に押し出され、脊髄が圧迫(おさ)されるのです。

原因は姿勢(せいし)の悪(わる)さなど生活習慣(せいかんぐわん)もありますが、元々(もとより)脊管(せきくわん)が狭(せま)い人もいます。狭(せま)い人はちょっとした変化(へんげん)で脊髄(せきずい)が圧迫(おさ)されやすく日(ひ)ごろの生活(せいかつ)での注意(ちゅうい)が大切です。このような症状(じょうまう)があり、不安(ふあん)を感じたら、早期(そうき)に専門(せんもん)病院(びやういん)でレントゲン、MRI(磁気共鳴画像装置)などで総合的に診断(しん断)してもらってください。自分の病態(びやうたい)を知り、理解(りかい)しておくことが大切です。治療(ちりょう)の基本(きほん)は生活習慣(せいかんぐわん)の改善(かいぜん)です。私の経験(けいけん)では、姿勢(せいし)を正(ただ)すなど生活習慣(せいかんぐわん)を改(か)めることで約半数(やくはんすう)の人が良(よ)くなつていくように思います。



その他(その他)では、若い人(若いひと)に多い椎間板ヘルニア(椎間板が脊管(せきくわん)内(うち)にとびだす病気)や糖尿病(とうりょうびょう)の人に多いと言われる後縦靱帯(こうじゅうじんたい)回(かへ)は腰椎(こし)の病気(びやうき)。

柱管(ちゅうくわん)の空間(くわんかん)を広(ひろ)げるイメージです。手術(じゆてい)をすれば痛み(いたみ)がなくなり歩行(ほこう)も楽(やす)になります(次回(かい)は腰椎(こし)の病気(びやうき))。



ほうしまる・みのる 京都大学医学部卒業後、カリフォルニア大学サンディエゴ校に留学。平成11年、大津市民病院脳神経外科診療部長、信愛会脊椎脊髄センター長などを経て28年に交野病院院長を兼務。日本脳神経外科学会専門医、日本脊髄外科学会指導医など。Best Doctors in Japanに2020-2021など計4回選ばれている。
☆社会医療法人交野病院 大阪府交野市松塚39の1
TEL 072・891・0331(代)